

令和元年度京都府看護師等確保対策推進協議会 協議概要

1 開催日時 令和元年5月31日（金） 午後3時30分～17時

2 開催場所 京都ガーデンパレス「鞍馬」
(京都市上京区烏丸通下長者町上ル龍前町605番地)

3 出席委員 11名

中村委員、石丸委員、三木委員、今西委員、林委員、中田委員、武田委員、濱戸委員、萩本委員、池本委員、渡邊委員

欠席：大坪委員、藤原委員

4 協議概要

協議事項

- (1) 需給推計値の分析について
- (2) 供給推計値の分析について

●…委員からの意見 ⇒…事務局の回答

<協議事項(1)についての主な意見>

○国推計値について

●時間外勤務や働き方改革の影響を踏まえた推計値とするべき。

⇒国に推計値を報告後、国において各都道府県の集約を行い、超過勤務や有休取得日数などいくつかのシナリオを作って、フィードバックされる予定。看護師の技量による労働生産性については全く踏まえていない。

○府推計値について

●地域包括ケアシステムが変わってきており、高度急性期病院などの現場は疲弊している。府で平成29年に行った実態調査で現場の実状がうまく反映できるだろうか。

●看護師の配置基準が変わっていく中で、働き方改革や地域医療構想の実現に向けて転換期を迎えており、今後の看護の動向を注意深く見ていく必要がある。

●地域偏在や年齢構成別の需要数が出せればと思うが難しい。

●地域偏在の問題は都道府県レベルの政策では限界がある。国が主導で政策に変えていくべき。

●北部地域では定年後の再任用制度を活用する人も多いが、そのために新規採用職員が雇えないという現状がある。

<報告事項(2)についての主な意見>

●今後も年間500人のペースで看護師が増えるのか。

⇒現在、府では4本柱（養成、確保・定着、資質向上、再就業支援）で看護師確保を進めている。今後の具体的な施策は次回の会議で議題としたい。

●養成校では、定員割れの危機感を抱いているところもある。特に社会人の入学は減っているし、大学でも受験者数が右肩上がりという訳ではない。

⇒課程においてもばらつきが見られる。

●卒業後他府県に就職する人もおり、人材の流出入を踏まえないという国のスタンスは楽観的ではないか。

⇒現状、京都府においては、流出と流入数はほぼ変わらない。

大学の定員数は増加傾向にあるが、大学卒業者の府内定着率は低く、注意深く状

況を見ていかないといけないと考えている。

- 根本的な不足を解消するには、看護師の仕事量を減らすなどの政策を国主導ですべき。

<今後の予定>

会議内容を検討の上、事務局で意見を整理、検討し各委員（団体）へ連絡することとする。